

7月31日のウクライナ情報

安齋育郎

① メル・ギブソンのアメリカ社会論(2024年7月29日)

※安齋注:このメル・ギブソン(アメリカ合衆国とオーストラリアの映画俳優、映画監督、脚本家、映画プロデューサー)の見解について安齋は今のところ責任あるコメントはできません。

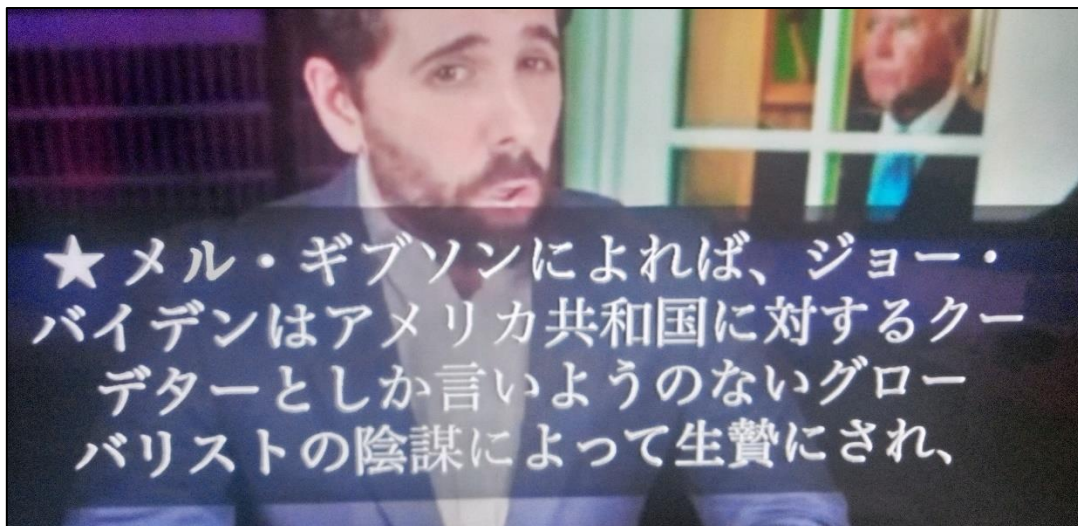
メル・ギブソンは、バイデン大統領が、彼の危険な資料を持つグローバル리스트勢力によって大統領選から強制的に排除されたと語っています。ギブソンは、こうしたエリートたちが、自分たちが選んだ候補者がアメリカ破壊のアジェンダを継続するために選ばれるようにシステムを不正操作した事も告発。

主流メディアとハリウッドは共犯であり、小児性愛や悪魔崇拝の儀式のような犯罪を隠蔽し、これらの問題を暴露する内部告発者が沈黙させられたり殺されたりしていると激怒。

ギブソンは、こうしたエリートたちの正体を暴き、特に児童売買への関与を浮き彫りにしようと考えています。

ギブソンは、子どもたちの救出に積極的に取り組み、これらの問題に対する認識を高めるためのメディアを制作してきました。ギブソンは、強力なグローバル・エリートが世界の指導者や組織を支配し、彼らの利益を促進するために混乱と破壊を利用していると主張する。彼は、真実を明らかにし、これらの悪と闘う努力への支援を呼びかけている。

<https://x.com/i/status/1817688236908794287>



<https://x.com/w2skwn3/status/1817688236908794287?s=09>

②オルバン首相のロシア観(2024年7月28日)

ハンガリーのオルバン首相:ロシアは私達が見ていたのとは違う。この国の経済的活力には驚かされる。現実にはロシアは2014年のクリミア侵攻後の制裁から教訓を学んだ。

教訓は学んだだけでなく実行に移されている。情報技術や銀行業務が改善され、これがロシアの金融システムが崩壊していない理由。

ロシア人は農業を近代化した。

そして今日かつて輸入国だったロシアは世界最大の食料輸出国として語られている。

だからRUロシアがネオ・スターリン主義の硬直した独裁国家であるという説明は間違っている。

実際には技術的、経済的、そして後述するようおそらく社会的な柔軟性を示す国なのだ。

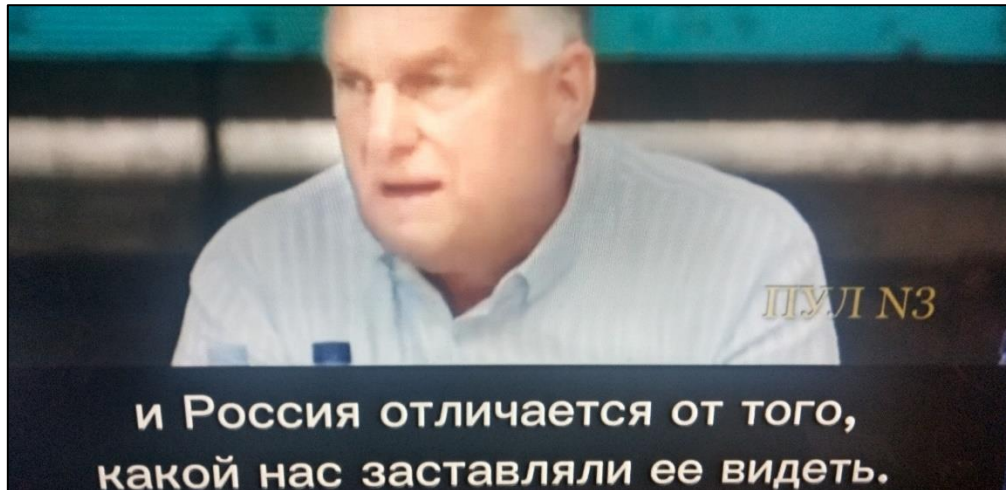
私達は少しばかり勝手ながら誠実な友愛の言葉を口にする事を許そう。ポーランド人は全ヨーロッパの中で最もスキャンダラスで最も陰湿な政策を追求している。

私達を道徳的に持ち上げロシアとの経済関係を批判し、その一方でロシアとは無私無欲にビジネスを行い仲介業者を通して石油を買っている。

ポーランド経済はこれを利用している。ちなみに先月はロシアからのガス購入量で我々を上回ったが少なくとも道徳的な根拠で我々を教育する事はない。

ポーランド人は商売をしながら私達を批判している。私はこの 10 年間、ヨーロッパでこれほど深くエキサイティングな政治を見た事がない。

<https://x.com/i/status/1817427643924611226>



<https://x.com/Reloaded7701/status/1817427643924611226?s=09>

③スコット・リッターが明かす NATO の基地、ウクライナの武器庫が消滅 米国の動きにロシアは懸念(2024年7月29日)

<https://youtu.be/3OS5GEK9lfI>



<https://www.youtube.com/watch?v=3OS5GEK9lfI>

④ロシア軍、投降促すビラをウクライナの陣地に「発射」(2024年7月27日)

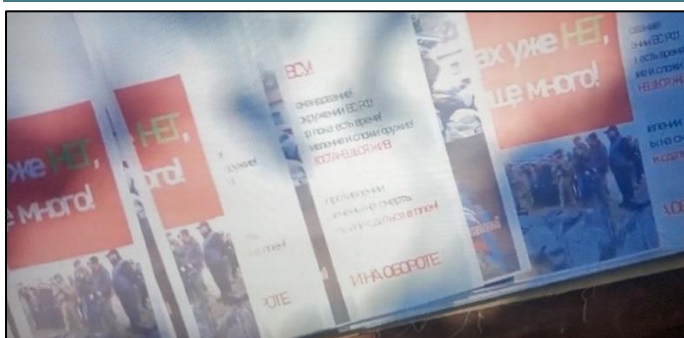
ロシア軍は投降を呼びかけるビラを砲弾に詰め込み、ウクライナ側の陣地に向けて発射している。ロシア国防省によると、ウクライナ側は1日あたり平均で2000人近くの損失を出している。無駄な犠牲を生まないよう、ロシア軍は投降を呼びかけている。



<https://sputniknews.jp/20240727/18882173.html>

〈関連情報〉

<https://twitter.com/i/status/1817074080916668530>



白旗掲げて降伏

⑤ロシア・ASEAN 外相会議後の記者会見におけるラブロフ露外相の発言要旨 (2024年7月27日)

- ・西側諸国はアジア太平洋地域に新型兵器を配備し、地域での対立を激化させている。
- ・ロシアはアジア太平洋地域に中・短距離ミサイルを配備する米国の計画の危険性を ASEAN が認識することを期待している。
- ・ロシアは米国と韓国の共同核計画に懸念を抱いている。
- ・ASEAN 加盟国は西側諸国との対立を望んでいないが、地域に NATO が侵入する脅威を感じている。
- ・ASEAN 加盟国はユーラシアに新たな安全保障アーキテクチャを形成するというロシアの構想に関心を表明した。
- ・ロシアはアジア太平洋地域に核兵器のコンポーネントを配備するという AUKUS の活動を IAEA が完全に管理するよう努めている。
- ・ラブロフ外相は、本日、同地域における米国の行動について韓国の外相と協議すると述べた。



<https://sputniknews.jp/20240727/18883165.html>

⑥ ロシア、ポクロフスク、セリドヴォに接近、ウクライナ軍は逃走、ゼレンスキーは会談を求めるがロシア側の条件を拒否、中国は激怒(アレクサンダー・メルクーリス、2024年7月29日) ※自動翻訳でお聞きください。「レンガ」と出てきたら BRICS のことです。

<https://youtu.be/ynX4ljNs42g>



<https://www.youtube.com/watch?v=ynX4ljNs42g>

⑦タラバ副首相(スロバキア)のオリンピック開会式欠席理由(2024年7月29日)

パリ五輪の閉会式に国を代表して出席する予定だったスロバキアのタラバ副首相は同大会の開会式が「倒錯した退廃の象徴」にほかならないとし、閉会式には出席しないと表明した。

パリ五輪の開会式は7月26日に行われた。女装した男性やLGBTQ+コミュニティの関係者らが「最後の晩餐」をパロディ化したパフォーマンスを行ったことから、特にキリスト教社会では強い批判にさらされている。パリ大会のデキャンプ広報部長は気分を害した人々に謝罪した。

このスキャンダルを受け、スロバキアは閉会式への出席を拒否した。タラバ副首相はSNSへの投稿で次のように記した。

「この五輪はノーマルの世界において、倒錯した退廃の忌まわしい象徴として永遠に記憶されるだろう。スポーツの美しさを悪用し、進歩的な政治劇へと仕立て上げたのだ」

これに先立ち、スロバキア議会のプレビコワ議員はパリ五輪の開会式について言及し、不道德のデモンストレーションと表明していた。平和、文化、スポーツを称賛すべき場所が、歪んだ道徳的・文化的価値観を促進する場と化していると指摘し、リベラル・進歩主義的倒錯の押し付けに他ならないと酷評した。



https://x.com/sputnik_jp/status/1817763980624249127?s=09

⑧スコット・リッター:プーチンのこの行動はウクライナを終わらせるだろう! NATOがロシアを攻撃すれば壊滅的な結果がもたらされる(2024年7月29日)



<https://youtu.be/QLT6KhPXzIO>

※安齋注:自動翻訳機能を利用してご覧下さい。いつものように自動翻訳はドネツクを「ドネト」と訳したりルハンスク(ルガンスク)を「ルーガン」と訳したりいろいろありますが、想像力でお読み下さい。スコット・リッターの価値観もろ出しの論説ですから、正しいとか正しくないとかは論評ませんが、参考になるでしょう。ただ、1時間20分もある

ので適宜パスして味わって下さい。バイデン政権にパスポート取り上げられた後も元気ですね。

<https://www.youtube.com/watch?v=QIT6KhPXzIO>

⑨ウクライナ軍 ロシア北部や南部の航空基地を相次いで攻撃(NHK Web, 2024年7月29日)

ウクライナではロシア軍による激しい攻撃が続く一方、ウクライナ軍は、ロシア北部や、一方的に併合されている南部クリミアなどにある航空基地を相次いで攻撃するなど、ロシアの航空戦力に打撃を与えるための作戦を続けています。

ウクライナ北部スミイ州の検察当局は27日、ロシア軍が国境に近い街への砲撃を行い、子どもを含む10人以上がけがをし、このうち14歳の少年が死亡したと発表しました。

一方、複数のウクライナメディアは、軍の情報総局の関係者の話としてウクライナ軍が、無人機を使ってロシア北部や南部などにある複数の航空基地を攻撃したと27日、伝えました。

ロシア北部のムルマンスク州にある基地に対しては巡航ミサイルを搭載できる爆撃機ツポレフ22M3にも攻撃を加えたとしています。

ウクライナのメディア、キーウ・インディペンデントは「ウクライナは、欧米からの長距離兵器をロシア領内に向けて発射する許可が得られない中、国産の無人機を使った攻撃を行っている」と伝えています。

さらに、ウクライナ軍の参謀本部は26日、ロシアが一方的に併合している南部クリミアにあるサキ航空基地を攻撃したと発表しました。

この基地は「ウクライナへの空爆などに使用される基地の1つだ」としていて、ウクライナ側は、ロシアの航空戦力に打撃を与えるための作戦を続けています。

⑩“モディ首相 来月ウクライナ訪問を検討”インド 複数メディア(NHK Web, 2024年7月28日)

インドのモディ首相が来月、ウクライナへの訪問を検討しているとインドの複数のメディアが報じました。訪問が実現すれば、ロシアによるウクライナ侵攻後、初めてとなります。

インドの複数のメディアは27日、外交筋などの話として、モディ首相が来月、ウクライナへの訪問を検討していると報じました。訪問は来月23日ごろになるなどと伝えています。

インドはロシアの伝統的な友好国で、モディ首相は、今月上旬にロシアを訪れてプーチン大統領と会談し、ウクライナ侵攻をめぐって「罪のない子どもの命が失われている」などと懸念を伝えました。

このモディ首相のロシア訪問に対し、ウクライナのゼレンスキー大統領はSNSに「世界最大の民主主義国家の指導者が、世界で最も血塗られた犯罪者とモスクワで抱き合ったことは大きな失望だ」などと非難していました。

その一方、ゼレンスキー大統領は26日のNHKとの単独インタビューで、モディ首相も参加した去年のG7広島サミットに触れ、「インドと初めて強力な接点を持った。戦争中にとっても大切なことだ」と述べ、インドの重要性を指摘していました。

訪問が実現すれば、ロシアによるウクライナ侵攻後初めてで、インドがウクライナとも関係強化を目指すことになるのが注目されます。